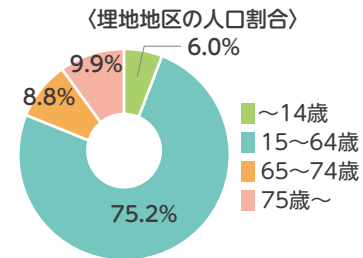


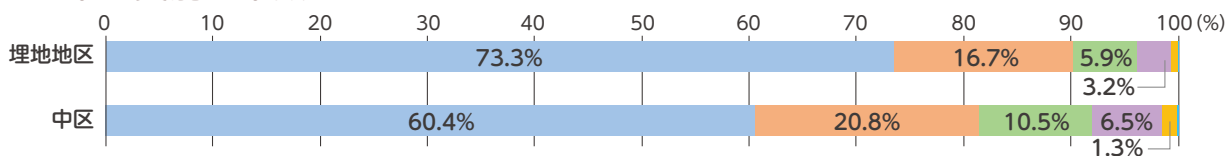
埋地地区の統計データ

人口

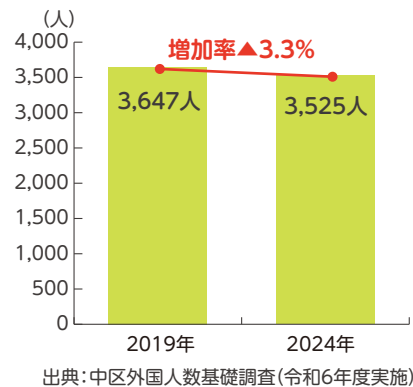
	合計	～14歳	15～64歳	65～74歳	75歳～
埋地地区	13,044人	784人	9,810人	1,157人	1,293人
	100.0%	6.0%	75.2%	8.8%	9.9%
中区	155,313人	14,103人	104,356人	16,773人	20,081人
	100.0%	9.0%	67.1%	10.8%	12.9%



世帯人員別世帯数



地区内の外国人数



人口は増加しています。15～64歳は約75%と多く、単身世帯の割合も高く、働き世代の単身世帯が多い地域です。

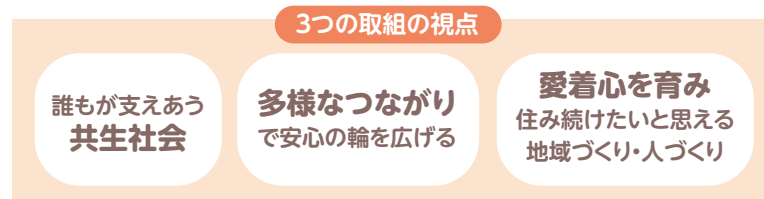
65歳以上の割合は区平均より低く推移していますが、65歳以上人口は増加しています。

外国人数はやや減少していますが、区内では人数が1番多く、他の地区と比べても多くの外国人が暮らしています。国籍別では中国が6割以上となっており、韓国、ネパール、フィリピン、ベトナム、台湾など、様々な国籍の人が暮らしています。

出典記載のないものは「横浜市統計情報ポータル」(令和7年3月現在)より引用しています。

区計画とのつながり／2本の柱と3つの取組の視点

区計画は、2本の柱「えん結び」と「元気いっぱい」に加え、**3つの取組の視点**で地域活動を支援していきます。



福祉・保健の身近な相談窓口

横浜市
不老町地域ケアプラザ



〒231-0032
横浜市中区不老町3-15-2
☎045-662-0161 FAX:045-662-0192

- 介護保険や福祉・保健サービスの提供や、車いすなどの福祉用具の無料貸出を行っています。
- 赤ちゃんから高齢者まで、地域の方々の相談を受け付けています。

お問合せ先

横浜市中区役所
福祉保健課 事業企画担当

〒231-0021
横浜市中区日本大通35番地
☎045-224-8330
FAX:045-224-8157



社会福祉法人
横浜市中区社会福祉協議会

〒231-0023
横浜市中区山下町2
産業貿易センタービル4階
☎045-681-6664
FAX:045-641-6078



第5期(令和8～12年度)

埋地地区

中区地域福祉保健計画

中なかいいネ!

目指すまちの姿

《笑顔はじける! つながりキラキラ埋地のまち》
～誰もが主役で、ワクワクが止まらないまち～

- 翁町
- 富士見町
- 山吹町
- 寿町
- 三吉町の一部
- 千歳町
- 不老町
- 吉浜町
- 長者町
- 万代町
- 山田町
- 扇町
- 松影町



お三の宮例大祭
大神輿御巡行

詳しくは
次のページを見てね!

横浜市地域福祉保健計画の
キャラクター「ちふくちゃん」



埋地地区の取組目標

1: あいさつで「つながる笑顔、はじける元気」、誰もが安心して暮らせるまちに【えん結び】

- 〈ことばのつながりプロジェクト〉声かけのきっかけづくりに、5か国語のあいさつカードを配布し、地域での声かけを促進します。スマホ翻訳も活用し、キラキラ笑顔のまちをつくっていきます。
- 〈住民参加型のイベントの充実〉ラジオ体操、ミニ夏まつり、わくわくランド、餅つき大会、埋地さろんなどの既存のイベントに、これまで以上に住民が関わりを持てる仕組みを構築していきます。
- 〈見守りネットワークの強化〉子どもも大人も外国人も、みんながつながり地域ぐるみの見守りをさらに強化し、顔の見える関係を広げます。

2: 身体も心も動き出す、みんな元気あふれるまちに【元気いっぱい】

- 〈「歩け歩け大会」〉スポーツ推進委員、青少年指導員が中心となって、魅力あるコースを設定し、健康づくりと地域の魅力再発見をはかります。
- 〈健康×スマホ教室〉地域の若者講師による、高齢者向けスマホ教室を開催します。社会福祉協議会とも連携して、コミュニケーションの場を広げ、健康と安心に繋がります。
- 〈スポーツチーム等との連携〉地域のプロスポーツチームやスポーツ施設(横浜BUNTAI、横浜武道館)と連携して、住民の健康増進をはかります。

3: 情報が隅々まで届き、誰もが関わりを持てるまちに【多文化共生、その他】

- 〈デジタル発信プロジェクト〉配布しているパンフレットや掲示板などへの二次元コードの掲載をはかります。若者や学生も一緒に地域メディアをつくりだします。
- 〈子どもや若者参画の推進〉南吉田小学校、横浜吉田中学校、関東学院大学、横浜ベルエポック美容専門学校などと引き続き連携していきます。
- 〈多文化共生の促進〉より多くの外国人住民に伝わるよう、イベント案内への多言語表記をこれまで以上に充実させ、参加への声かけを一層積極的に行います。
- 〈災害時の対策の強化〉防災訓練に子どもたちや外国人、ペットを飼育している皆さんにも積極的に参加してもらえる環境やプログラム作りに一層力を入れて取り組みます。



防災訓練

これまでの計画(第4期計画)の振り返り

コロナ禍が明け、年間を通じて様々な地域イベントが実施できるようになりました。イベントを通してたくさんの子どもが参加し、それにつられて大人の参加も増え、外国籍の親子の参加も増えるなど、顔の見える関係づくりが進みました。地域の学校や公共団体、事業者などとの関係も強まり、連携して実施する取組が増えてきました。一方、イベントにさらに幅広い住民の参加を得るためには、各イベントの魅力を一層高めるほか、口コミはもちろんデジタルの力も使って積極的に情報発信を行う必要があります。また、イベントの時に集まるだけでなく、日常生活の中での関わりをこれまで以上に強めることで、災害時などでの効果的な助け合いにつなげていくことも重要です。

第5期計画はこうに作りました

地区社協主催の懇談会や連合町内会での地域活動振り返り会を開催したほか、子どもを含め地域活動に積極的に関わっている人たちに個別に意見を聞くなど、様々な関係者からアイデアを募りました。それを連合町内会の作業部会が計画案にまとめた後、更にいろいろな人からコメントをもらい、最終版に練り上げました。



埋地地区はこんなまち！

今から約350年前、吉田勘兵衛氏による干拓事業により埋め立てられた地であることが、地区の名前の由来になっています。集合住宅と商業系ビルが林立し、交通の便が良く、暮らしやすい街です。ここ数年の間に、横浜武道館と横浜BUNTAIが開館し、関東学院大学が移転してくるなど、新たな魅力も加わりました。近年、単身世帯数、外国籍居住者数の増大などがあり、顔の見える関係づくりのための取組を進めています。